



【発行】林野庁 東北森林管理局

住所：青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字東阿部野 70-82

津軽白神森林生態系保全センター

TEL：0173(72)2931

第1回自然再生活動を開催しました

津軽白神森林生態系保全センターでは、平成21年3月に策定された「白神山地周辺地域自然再生計画書」に基づき、平成22年度より自然再生活動として一般参加者を対象にブナ等広葉樹の苗木の採取及び植樹体験を実施しております。

今年度1回目は6月28日土曜日に西目屋村鬼川辺国有林180ろ2林小班内にて当日の参加者7名とセンター職員4名で実施しました。実施内容は予め当センターが近隣から採取し仮植していたブナ、ミズナラ、イタヤカエデ、トチノキ稚樹約20本の掘り取り植え付け作業を実施しました。

当日は、天気がとても良くて気温も高く、こまめな水分補給をしながらのハードな作業でしたが、皆さん頑張って作業されておられました。その後、昨年度2回植え付け作業を実施した箇所を見学頂きながら、植え付けしたブナ等が元気に育っている姿を実感していただきました。

午後からは、津軽峠までバスで移動して白神岳、高倉森を遠望してから、昨年春枯死した白神のシンボルだったマザーツリーの現在の姿を見学していただき、その後、ぶな巨木ふれあいの径を、約1時間ほど掛けて散策し、最後に、マザーツリー後継の白神いざないツリーを鑑賞して白神山地の森林の雄大さを実感していただき、第1回自然再生活動を終了しました。また、参加者からは、「初めての植栽で、どの程度の大きさのものを、どのように植えるのか興味があった。」「自然再生活動に参加出来、楽しかった。」「昨年の苗木の成長ぶりを目で確認できたことに対し、とても感動しました。」など、たくさんの感想をいただきました。

当センターでは、秋にも第2回自然再生活動を実施する予定となっております。ぜひとも、また参加をいただき世界自然遺産地域での植え付け作業を体験していただければと思います。最後になりますが、皆さんの元気に頑張って活動している姿が、いまだに、目に焼き付いている今日この頃です。



植え付け作業の様子



いざないツリーで記念撮影

尾上総合高校生徒がオオハンゴンソウ駆除作業を体験

県立尾上総合高等学校から体験学習の依頼を受け、令和7年7月1日（火）、西目屋村白神ライン沿いの国有林内で当センターが令和5年度から行っている特定外来生物に指定されているオオハンゴンソウの駆除活動に生徒4名に参加してもらいました。この駆除活動には他に環境省西目屋保護官事務所、白神山地ビジターセンター、津軽森林管理署からも参加していただき、総勢14名で実施しました。

尾上総合高校では「課題研究」の授業で、生徒自ら地域の課題についてテーマを設定し研究していて、今回は「白神山地の外来植物を減らすには」というテーマで研究しているグループが、体験学習として参加しました。

今年は時期が早かったためか、オオハンゴンソウの黄色い花はまだ咲いておらず、草丈も10～20cm位の小さいものがほとんどで、葉っぱの形や触ってみてザラザラするなどの特徴を見ながら判別するのですが、最初はなかなか見分けがつかず、環境省西目屋保護官事務所の職員に教わりながら見分けていました。

また、オオハンゴンソウを駆除するために根まで取り除く必要があるのですが、今回のオオハンゴンソウが生えている場所は作業道脇で砂利や石が多く埋まっているところで、根が石の間に入り込んでいて、スコップもなかなか入っていかず、生徒たちは慣れないつるはしや鍬を使って一生懸命に掘り取り作業を行いました。

汗をかきながら30分以上作業をしたところ、草丈約10cm～約60cm、合計100本以上のオオハンゴンソウを掘り取ることができました。生徒からは「もっと簡単に抜けると思っていた。想像以上に大変な作業だった。」などと感想がきかれました。

掘り取ったオオハンゴンソウは当センターで乾燥させ枯らしてから処分しました。

このオオハンゴンソウ駆除作業は今年で3年目になりますが、まだ同じ場所に生えてきているのを見ると繁殖力の強さを感じます。しかし、暗門の近くの白神ライン沿いでオオハンゴンソウが生えているのは現在のところこの場所だけなので、白神山地世界遺産地域の森林生態系に影響を及ぼさないよう、これ以上広げないため駆除を続けていきたいと思います。



掘り取り前のオオハンゴンソウ



つるはしを使って掘っています



掘り取ったオオハンゴンソウと
記念写真